

奈弓連だより

通巻 218 号

令和 2 年 4 月号

発行 奈良県弓道連盟

会長 西中 正

編集担当 松澤和実 山本悦子

連絡先 : henshu@narakyudo.jp

会長 新年度挨拶

未曾有の試練のなか、皆さまの健康と安全を最優先に 考えて活動します



日頃は奈良県弓道連盟の活動にご理解とご協力ありがとうございます。

新型コロナウイルスの感染拡大は日本だけでなく世界中に大きな影響を及ぼしております。

政府の緊急事態宣言を受け、4月10日、皆様に5月6日まで弓道の活動の自粛をお願いしました。しかし、それ以降についても情勢はなおも流動的なものと思われ

ます。このような中で、令和2年度を迎え、事業計画、予算を決める評議員会を中止とさせていただき、メールを使っての決議案の議決という対応でみなさまにご理解していただくこととなりました。また、3月8日に実施されました理事会での決議事項は一部変更されることになり、新年度の行事など、実施すべき事項については、理事達が連携・調整して進めて行くことが、4月12日の臨時理事会で決定されました。

何よりも、奈良県弓道連盟は、会員の皆様とご家族様

奈良県弓道連盟 会長 西中 正

の健康と安全を最優先に考えて活動して行きます。これからの行事については、新型コロナウイルスが何時終息に向かうのか、状況を見ながら、会長、副会長、で相談しながら進めて行きます。

1月5日の臨時評議員会で、役員改選が行われ新体制がスタートしました。新体制のもと、10年後に予定されています国体準備も含めて、財務の見直しを進めます。また、公正・公平、透明性のある審査会をめざします。

各部のスタッフも一部、新しい人をお願いすることになりました。財務部長を小林保彦氏から村高洋氏に審査部長を平木一史氏から松村由喜子氏に。長年ご活躍していただいた、小林保彦氏、平木一史氏、その他にも、各部でご協力いただいた皆様に感謝いたします。

弓道を愛し修練を積み重ねてこられた皆様が一日も早く正常に活動できる環境になることを願いながら、新年度を進めて行きます。皆様のご協力よろしくお願ひします。

全日本弓道連盟、連合、地連が5月に開催予定の 行事がすべて中止に

新型コロナウイルス感染症の流行の拡大に伴い、3月、4月において、中央審査・連合審査・地連審査、さらには講習会などの行事の中止・延期が続いています。さらに4月7日の政府の緊急事態宣言による活動自粛要請等を受け、全日本弓道連盟は5月の全日本弓道連盟主催の次の行事についても中止を決定しました。

- 5月2日・3日 全日本弓道大会 京都市
- 5月4日・5日 【京都】定期中央審査会 京都市
- 5月6日 【近畿地区】錬士臨時中央審査会 京都市
- 5月9日・10日 【東京】学生特別臨時中央審査会 中央道場
- 5月16日～18日 【東海地区】臨時中央審査会 岐阜市

また、5月中に開催を計画されている連合審査会・地方

審査会ならびに競技会・大会も原則として引き続き中止や延期となりました。これに伴い、奈良県では5月31日に予定されていた地連審査を7月19日に橿原・奈良の両会場で実施する予定です。詳細は追って連絡させていただきます。

奈良県では練習会の開催を自粛

さらに、奈良県では 県連医科学委員の藤本先生から「政府の専門家会議は、各人が他人との接触を7、8割減少させなくては、この難局を乗り切れないとしており、奈良県弓道連盟会員の生命、安心、安全を守るため、一般の練習会を当面自粛すべき」との助言をいただきました。この助言に基づき西中会長は4月10日、「このことの重大性を考慮し、各支部・団体におかれましても特別な事情のある場合を除いて、当面5月6日まで練習会開催の自粛をお願いしたい」とのメッセージを出しました。

(事務局)

新任部長の挨拶

財務部長

村高 洋

この度、財務部部長を担当することになりました。公私とも財務と言う立場を経験したことはありませんが、会長をはじめ役員の皆様とご相談しつつ財務部として、奈良県弓道連盟の皆様活動を支えていけるよう務めてまいります。これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

コロナウイルスが早く終息し、皆様にご活躍できますよう心より祈念しております。

審査部長

松村 由喜子

令和2年度より審査部長を仰せつかりました。

指導部で8年、西浦先生、山本先生、吉本清巳先生に仕え、県連行事に携わって来ました。指導部での経験はとても貴重なもので、随分成長させていただきました。

審査部に関しては、全く未知の世界で、いきなりの部長という事、驚きましたが、引き受けさせて頂いた以上、副部長の佐藤さんをはじめ、奥戸さん、中井さん、高倉さん、長濱さんに助けて頂きながら、スムーズな審査会が実施出来る様に努力して行きたいと思っています。

ところが、新型コロナの影響で、3月の地連審査が延期となり、5月に学生のための救済審査を予定していましたが、これも中止となりました。7月は受審者が殺到する事も予想され、2会場を設ける事を事務局で調整して下さっています。苦しい状況の中、会長をはじめ役員の方々の努力を目の当たりにして頭の下がる思いです。

中学校、高校、大学、各支部共に練習の場が無くなり、途方に暮れている方も多いと思いますが、この機会に普段できていない事をやってみたらどうでしょう。例えば弓具の整備をいつもより念入りに行ったり、弓道衣、袴に丁寧にアイロンをかけたり、足袋の穴を繕ったり、審査に備えての勉強、読めなかった本や昔読んだ本を読み直したり、この苦しい時間を楽しい時間に変えていきましょう。小さなことでも笑って過ごしましょう。笑いは免疫力を高めると、竹村先生が教えてくださいました。そして、この難局を乗り越えた暁には、思い存分弓を引きましょう。

審査会も早く通常どおり開催できますようお願いいたします。若輩者ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

歳時記

「五月」 端午の節句

端午の節句は、武家時代には最も重要なものでした。江戸幕府では武家総登城の日で、大名、旗本全員が袴をつけて江戸城に集まりました。五月の端午（うま）の日を節日としていたのですが、重ねる午（ご）、重午の習慣から五月五日となったといえます。

本来中国の伝承から発する日で、この日用いるちまきなどには中国の伝説があります。しかし奈良時代には、日本でも節句となっており、馬に乗って弓を射ることや、あるいは競馬（くらべうま）などが行われました。

五月の花である菖蒲も、色々な飾りなどに用いられた記録が残っています。菖蒲はその香り、葉の形とともに、根は薬草として重んじられましたので、屋根にさし、髪にさして健康を祈ったのです。菖蒲酒、菖蒲湯などの習慣も、根がことに薬草として人切にされていた為です。

この菖蒲が髪への挿花として用いられたのが菖蒲兜となり、やがて木製兜となって、武家の時代になると武具、幟（のぼり）となっていきます。これも菖蒲が勝ち負けの勝負を連想させて、男の節句にふさわしいものとされてきたからでしょう。

幟（のぼり）は子供の健康と武運を祈って、室内に飾られていたものが次第に戸外にたてられるようになり、五月の節句独自の幟となったものです。

<中略>

飾り人形もおそらく武具飾りが、広く一般の民間風習となるにしたがって、武将をあやかる人形や、男らしさ象徴する人形となったもので、徳川中期ごろからの習慣です。

鯉幟（こいのぼり）なども、幟がのぼるその勢いに男らしさを感じ、一方では、まな板の上の鯉のいさぎよさ、あるいは鯉の滝のぼりなど、鯉からうけるイメージに男の生き方を象徴したものです。この気持が鯉幟になったのですが、これも徳川中期以降のことです。

五月晴れの青空に鯉の泳ぐ姿を吹流して、子供への愛情と季節の感覚をみごとに結びつけた当時の人々の心には、感心させられてしまいます。最近では豪華な飾り人形も多くみられますが、紙で折った兜に紙の鯉幟でも、健康への祈りと愛情は生かされるでしょう。

「小笠原流マナー」著者小笠原清信 グラフ社発行より
中埜大学藤原孝澄(中埜広樹)

(2008年4月号に掲載された記事を再掲)

今や、世界中が新型コロナウイルスと戦っています。県連行事も軒並み中止の状態で、奈弓連便りに掲載すべき行事がなく、原稿がありませんと編集部から執筆依頼がありました。自宅での自粛を要請されているこの時期に、マスクに関連して、私の闘病時代を思い出しながら、原稿の穴埋めにしたいと思います。

マスクを付けて審査を受けるのは如何と、県連の審査員研修会でも話題になりました。私が、抗がん剤治療を受けている間、免疫力の低下に配慮して、布目道場での練習は、皆さんマスクを付けて、行射していました。口割りの位置が不確かではありましたが、それなりに、体が覚えてくれていたのか、みなさん、上手に引いておられていたように記憶しております。

5月の京都大会で弓を引ける様になりたいという強い思い

さて、病气入院中は、何を考えていたのでしょうか。特に、無菌室での3週間は一步も病室から出られず、体力の衰えも感じながら、病气との闘いでした。ただ、5月の京都大会で弓を引ける様になりたいという思いだけでした。一番気になったのは、足腰の弱りです。NHKのテレビ体操は病气になる前から、生活習慣になっていましたが、ゴムチューブを使って、上肢の筋力強化をはかっていました。無菌室から出て、個室に移ってからは、室内でのスクワット？回、病院の片道約200歩ある廊下を5往復、7階までの階段を、これは1往復と院内で筋力の低下予防に努めました。

4月1日に退院して、翌日、郡山城の桜を見に行こうと出かけたものの、休憩しながら行っても、お城まで行けず、途中の市役所で引き返しました。体力の衰えを痛感したものです。それでも、京都大会に出場したいという思いが、回復を早めてくれたと思います。

大事なことは、目標を持つということではないでしょうか。新型コロナウイルスの感染がいつ収束するか前途の立たないところで、目標を持つというのは、難しいところではありますが――。

編 | 集 | 後 | 記

野尻さんが退任され、4月より編集委員を担当させて頂くことになりました。今回は野尻さんに大変お世話になりましたが、これから現編集委員の山本さんと力を合わせていきます。皆さまからのご指導、ご協力をお願いいたします。

原稿がなく困っているときに、吉本先生には快く執筆を引き受けていただき感謝します。先生の大変だった時期の乗り越える力をいただき事ができました。強い気持ち、明確な目標がとても大切なのだと改めて思います。また、歳時記



今年の郡山城趾からの桜です。遠くに若草山が見えます。

ゴムチューブを使っての伸び合い、離れの練習

東京定期中央審査の審査員で矢渡しを担当した時のことです。ホテルで、いつものように、テレビ体操をしてから、ゴムチューブで引いていたところ、会での伸び合い、離れが気持ちよく体験できました。「よし、今日の矢渡しはこれで」と決めてうまくいったことがありました。いつもこの様に行くとは限りませんが、この時の、ゴムチューブでの伸び合い・詰め合い・離れのタイミングはうまくつかめました。ゴム弓での離れの練習、イメージトレーニングは大事だと思いました。また、立ったり、座ったりの起居の練習は、畳の上でも出来ます。それぞれ工夫して、新型コロナウイルスに立ち向かっていきましょう。



このゴムチューブのおかげで矢渡しが上手になりました。

最後に、新型コロナウイルスに感染し、病气療養中の皆さんの一日も早いご回復をお祈りいたします。

では故中塾広樹先生(香芝支部)の原稿を再掲させていただきます。

各種大会、審査、講習会が中止や延期となっています。今年こそはと頑張ってきた人も多いことですが、今しばらく我慢の時を過ごすしかありません。皆さまが元気に過ごされますようお祈りします。

皆さまからの投稿をお待ちしています。

編集担当 松澤和実